

ご挨拶

徳島県邦楽協会
会長 浅香 寿穂

徳島県邦楽協会は、昭和42年、徳島県が芸術祭を開催するにあたり、県教育委員会社会教育課文化振興班から、県下の邦楽団体をまとめて邦楽協会をつくるようにとすすめていただき誕生しました。以来、1年に1回、会員が集って演奏会を開催し、昨年秋に45周年記念大会を迎えました。会員は、謡曲・長唄・鳴物・三曲・端唄・吟詠・琵琶など幅広いジャンルから様々な流派が加盟し、現在、65団体を擁しています。

そのようななか、この度、文化庁委託により、当協会において「伝統音楽普及促進支援事業」を実施することになり、まずは、教科書で扱われる尺八・箏・長唄三味線の分野において、実技講習、教材作成、コーディネーター支援事業の3事業を実施しました。この事業の目的は、学校の先生方と実演家が協働して、学校教育におけるより効果的な伝統音楽の指導方法を研究することによって、広く将来の邦楽愛好家を育成する土壌をつくろうとするものです。その背景には、継承者が減少する一方、学習指導要領の改訂によって音楽の授業で扱う伝統音楽が充実されるも、未だその指導が充分に行き渡っていないという状況があると思います。しかしながら本来、日本伝統音楽は、我が国の風土に根付いて我々の生活の中で親しみ育まれ、先人から受け継いできた価値のある文化であります。従って、このような我が国の音楽を次代を担う子ども達の手へ渡すことは、我々の使命であると考えます。本事業がその一助となれば幸いです。

本事業の推進にあたりましては、鳴門教育大学の西園芳信副学長はじめ、県教育委員会より指導主事の先生方、現場の学校教員の先生方、宮城教育大学の小塩さとみ教授、多数の方にご助力いただきましたこと、深く感謝申し上げます。また、本事業に携わられました本会の役員の皆様には、3年間大変お疲れ様でした。

今後は、この活動をこれで終わらせることなく、培ったことを糧に、邦楽の振興と発展のため、更に活動内容を充実させるよう努力する所存です。今後とも、何卒ご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。